

楽しい老犬生活パート3

総務課 稲本 たか子

以前のアポロ新聞では、老化のサイン、ボディケアの方法をご紹介しました。今回は健康ごはんについてご紹介したいと思います。

7歳からの食事は、「量」ではなく、「質」を見直す。

量を減らすだけでは、栄養不足になりがち

7歳を過ぎたころから気になり始めるのは「肥満」です。年をとってくると運動量が減り筋肉も減ってくるため、基礎代謝は低下します。それなのに若い頃と同じ量の食事を摂っていると、いわゆる「中年太り」になってしまいます。年をとったら食事を見直す必要があるのは、人間も犬も同じです。とはいえ、これまで与えていたフードの量を減らしてカロリーを抑えるだけでは、栄養不足になってしまいます。では、どのように見直していけばよいのでしょうか。

老犬の健康を保つには、シニアフードがいちばん

老犬の食事のポイントは、量を減らすのではなく、脂肪分の多いものを控えること。又、加齢に伴う消化機能の低下を考え、吸収性にすぐれたたんぱく質を摂りたいものです。そこでおすすめなのがシニアフードです。

シニアフードは、老犬に不足しがちなミネラルやビタミン、カルシウムなどがしっかり入っていますし、吸収性にすぐれたたんぱく質が配合されています。カロリーも低めに抑えられているので、運動量の減った老犬の肥満防止にも役立ちます。

「手づくり食を」と考える方も多いようですが、手作り食で老犬に必要な栄養素をすべて補うのは、非常に難しいもの。健康を保つには、老犬に必要な栄養素を手軽にバランスよく補える「シニアフード」が最適と言えるでしょう。

シニアフードにはいつから切り替える？

7歳前後に切り替えを考えよう

犬によっても違いはありますが、7歳を過ぎたころから老化のサインが少しずつ現れ、心臓病、肝機能障害、がんなど、老犬に多く見られる病気が増えてきます。ペットフードの分類で通常7歳からを「高齢期」としているように、このころがシニアフードへの切り替え時期です。

また、見た目は、若々しくても、内臓の機能が衰えている場合もあります。それなのにこれまでと同じ食事を与えていると内臓に負担をかけてしまうのです。「うちのコは、若いから大丈夫！」と安心せず、5歳を過ぎたころに一度動物病院で健康診断を受け、検査の結果などをふまえながら、シニアフードへの切り替え時期を考えるといいでしょう。

うちのコたちも16歳、15歳になって、りっぱなおじいちゃん、おばあちゃん犬になってしまいました。もちろん小粒なシニアフードを食べています。ロンは、気にいらないと食べてくれない時もあるけど、好物の鶏ささみのふりかけをちょっと足してあげています。

15、16歳になると、これから先、一緒にいられる時間にも限りがあります。少しでも長く一緒にいられるように食事にも気を付けてあげてみてはいかがでしょうか。

